

お花地蔵 おはなぢざう

むかし、向田村にお花と言う御婆さんが、とっても器量のいい孫娘と二人で住んでいた。近所の家の手伝いや、針仕事をして、細々と暮らしておった。

寒い冬のある日、孫娘がちよっとした風邪をこじらせて、寝込んでしまった。激しい咳と高い熱で、苦しみ続けていたので、お婆さんは毎日、仕事と娘の看病で、夜もろくろく寝られず、やせ細る思いだったと。

そんなある朝、お婆さんは、起きよう、起きようとしたが、なにしろ疲れきっているので、つい、うとうと寝落ちしまった。その時、日頃信心しているお地蔵様が枕元に立ち「これ、お婆さんや、七日間、一握りの米を道端の地蔵様にお供えし、その米を煎じて飲ませよ」

と言って。すーっと消えた。はっと目を覚ましたお婆さん、「ははあ、これはお地蔵様のありがたいお告げじゃ」

と喜び、さっそくその朝から、言われたとおり、お地蔵様をお願いし続けた。三日目頃、少し良くなった様に見えたんで、前にも増していっしょうけんめい続けたと。

ちようど七日目の朝、お婆さんが起きたらば、孫娘が元気な姿で立っておった。お婆さんは大喜び。

それからいっそうお地蔵様の信仰を怠らず、貧しくとも、孫娘と幸せに暮らしていた。でもな、ある年の暮れ、ちよっとした病気が元で、孫娘に看取られながら、しずかに息をひきとった。

その時、お婆さんの枕元には、いつの間に刻んだのか、一体の小さなお地蔵様が、置かれてあったと。

それから村の人たちは、お花地蔵と名付け、お婆さんと娘が住んでいた跡地に祀り、追善供養を続けたと。おしまい

烏山の民話より

ひとロメモ お花地蔵は、向田川南のやぶの中に、今でもひっそりとお祀りされている。

この地域では、特に子供の百日咳には、一握りの米をお供えしてお願いすれば、たちまち良くなるといわれている。